

[原 著]

図書館情報（リテラシー）教育におけるスポーツ学部学生の利用に伴う 動向について その2 利用に伴う学習傾向について

堀内 担志¹⁾，矢崎 美香²⁾，中村 絵理¹⁾

The trend of the library use by the student's faculty of sports science after receiving the library literacy education Part2. A tendency to learning with the use

Tanji HORIUCHI¹⁾，Mika YAZAKI²⁾ and Eri NAKAMURA¹⁾

Abstract

The library and the faculty of sports in Kyushu Kyoritsu University also carried out the introductory education for information literacy in this year. Though Horiuchi and Yazaki (2008) analyzed the effect of introductory education for information literacy on freshman's learning, we attempt to compare the learning trend of the third grader with that of freshman to find out a new trend in this paper. As the result of analysis in this paper, we show the effectiveness of making use of library in the university and how this effectiveness transforms.

KEY WORDS : literacy education, information education, library literacy,

1. はじめに

新学部設置から3年が経過し、スポーツ学部学生の学習及び図書館の利用に伴う動向についてある程度の流れが見えてきた。

この動向調査についての始まりは、スポーツ学部が大きな柱として掲げているスポーツを通じた全人教育と心の教育の中で「社会組織の中でどう自分が動くのか」，「人をどう動かしまとめるのか」といったコミュニケーション能力の向上からであった。

また大学に通うことによる様々な問題意識を持ち、社会人としての資質を研ぎ、社会の中におけるスポーツの意義と生かし方を学び、深い洞察力と知識を身につけることを目標として図書館情報（リテラシー）教育を行ったことがきっかけである。

2. 目的

今回は、昨年発表した論文（「図書館情報（リテラシー）教育におけるスポーツ学部学生の利用に伴う動向について」¹⁾）をもとに、新入学生を対象に行った図書館情報教育における学習効果を踏まえながら次の展開及び考察を行うこととした。

その結果を効果ある傾向として継続的にみるために、今年度学部最高学年である3年生の動向を調査することにより、これまでの情報教育がどの程度学生に反映し、本人たちのスキルとなっているのかをみるのが重要である。

また、3年生は4年生に向け卒業論文の文献収集など本来の図書館活用におけるスキルを発揮するところであり、1年生と違う自発性をみる上で必要不可欠な

1) 九州共立大学スポーツ学部

2) 九州共立大学附属図書館

1) Kyushu Kyoritsu University Faculty of Sports Science

2) Kyushu Kyoritsu University Library

学年である。

これらを踏まえ、今回は本学における図書館情報（リテラシー）教育の学部との連携の定着及びそれに伴うスポーツ学部と図書館と協力体制の整った指導の効果をみることを目的とした。

3. 実施内容の説明

昨年から本格的に学部と連携した図書館情報（リテラシー）教育を実施することとなった。

例年、スポーツ学部1年生全員を対象として「人間基礎演習」の講義時間1コマを提供してもらい4月～6月にかけて「新入生ゼミ」（Step0）を行っている。講義の内容としては、図書の蔵書検索についてパワーポイントを使いながら説明を行った後、検索を行う際のポイントとしてキーワードの切り出し演習をさせる。そして切り出したキーワードを使い実際の本を検索する。検索結果から自分の欲しい本3冊を取捨選択して検索結果記入用紙に記述。その後、図書の配架場所にて説明を行った。ただし1回の講義人数が多数のため口頭のみで館内案内を行った。

新入学生においては「スポーツ学概論」の講義時間を検索スキル向上のため提供してもらい「Step1」（Step0の復習及び図書の検索、検索結果の記入、実際の図書検索などの演習）、「Step2」（Step1の復習及び課題に伴うキーワードの切り出し、検索、検索結果の記入方法及び参考文献の記入方法の演習）を行った。

また、スポーツ学部3年生においては、1年生の図書館情報（リテラシー）教育の習熟度と文献収集スキルをあげるために「スポーツ学演習Ⅰ、Ⅱ」（Step3）の各ゼミ単位教員の協力のもと行った。

「Step3」の講義内容は「図書館活用」と題し、蔵書検索はもちろんのことデータベースの使い方及び参考文献の使い方、また論文作成に伴うスキルの教授をゼミ教員との連携体制のもと行った。

この「Step0」～「Step3」を行うことによりスポーツ学部学生の図書館利用動向に少しの変化が見られるようになった。

4. 利用の動向変化

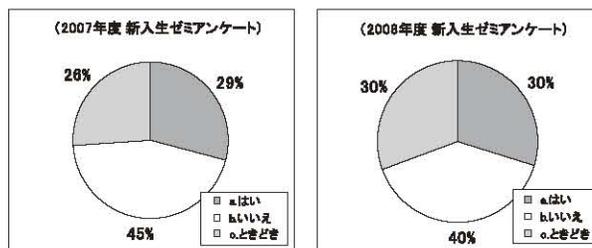
1) 学生の図書館認知度及び利用度

「新入生ゼミ」（Step0）の際に実施した図書館アンケートにおける意識調査結果からみると、前年度との

結果に大差はない。

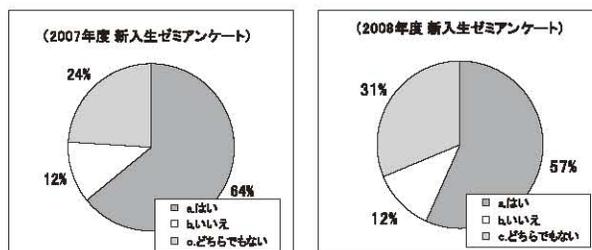
しかし、アンケートを実施するということは、スポーツ学部学生の利用動向を分析し、かつ学業に対する意識調査をすることとなり、今後の指針の参考にできるものである。

まず、図1の2008年度新入生ゼミアンケートでは、「入学前の高校の図書館（室）の利用」については全体の30%が「利用している」、30%が「ときどき」、40%「いいえ」と半数以上の学生は図書館を利用していなかった事になる。



(図1) 高校生の時に図書館（室）を利用していましたか

この傾向は前年度の29%が「利用している」、26%が「ときどき」、45%「いいえ」とほぼ同様の数字を示している。



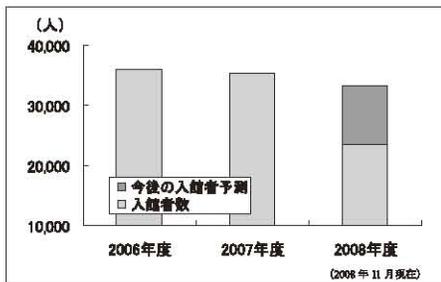
(図2) 新入生ゼミを聞いて図書館を利用しようと思いましたが

しかし、図2の「Step0」説明後のアンケートでは「図書館を利用しようと思いましたが」という問いに対して、2008年度では57%、2007年度では64%が「利用しよう」と思ったと回答している。このことから、やはり新入学生においては大学入学という新たな環境下で学習意欲が高まり、図書館という学習の場に興味を抱いていることが推察される。

2) 受講後の変化

図書館の利用動向変化については「新入生ゼミ」を行うことにより、前年度からの入館者数及び貸出冊数にどのような変化をもたらしているか、全体的な図書館の動きに注目してみる。

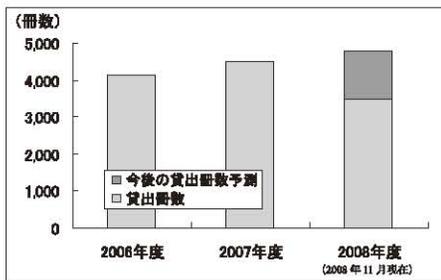
過去3年間の図書館の入館者数は図3の通りさほど



(図3) 過去3年間の総入館者

大きな伸びはなく、ほぼ平行線上である。

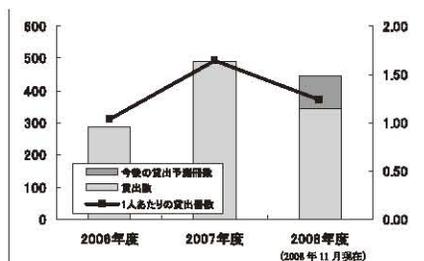
これは利用者に大きな利用動向の変化がなく、平均的な利用状況を呈していると考えられる。また、貸出の動向についても図4のとおり同様の事がいえる。



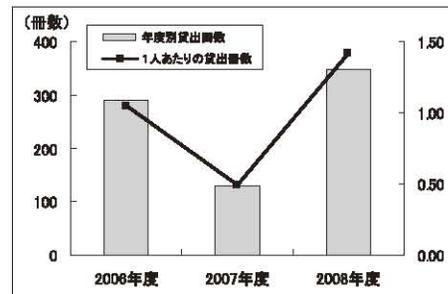
(図4) 過去3年間の総貸出冊数

この貸出状況を図5のスポーツ学部1年生だけに特定してみると、一人あたりの貸出冊数は昨年の情報教育の回数に影響していると考えられ、僅かながら多い。また図6の現3年生の貸出動向を見ると1年生は新入生ゼミ後のため貸出冊数が多いが、2年生の時はほとんど貸出が行われていない。しかし、3年生になると卒論に向けたゼミが開始されたため、学生の動向に変化がでており、1人あたりの貸出冊数が少し伸びている。勿論、図7の学年別の1人あたりの貸出冊数と比較してもわずかながら多い。

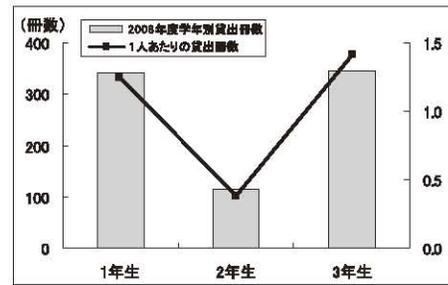
このことから、図書館の情報教育と学部講義との連携がいかに学生の動向及び学習意欲を左右するかが考察できる。



(図5) 新入生ゼミ受講後のスポーツ学部1年生1人あたりの貸出冊数



(図6) スポーツ学部3年生の1年次からの貸出冊数



(図7) 2008年度 スポーツ学部学年別貸出冊数

5. 講義中の課題(検索)に要する時間の変化

「新入生ゼミ」及び「図書館活用」の図書館情報 (リテラシー) 教育を行った中で、課題(検索)に要する時間をみることにより学生本人のスキルがどの程度向上し、習得できているかをみるために時間を計ってみた。

講義中に行っている蔵書検索を伴う一連の演習は、まず課題にあったキーワードの切り出しに要する時間、検索速度の時間、検索後の利用したい本3冊を取捨選択して検索結果記述表に記入、それら3点のプロセスにおける総所要時間の傾向及びそれぞれの課題の所要時間を例年同様の方法で調査を行い、その変化の差違をみることにした。

この方法は、3年生の「図書館活用」(Step3)の際にも同様に行った。その結果、興味深い考察結果が見えてきた。

「Step0」「Step2」の総所要時間を年度別にみても若干所要時間が減少しているが、早い学生(18~25分)と遅い学生(33分~44分)の所要時間の差(10分~15分)は例年と変わりはない。

しかし、「Step3」での所要時間をみると、キーワードの切り出しに要する時間が減少せず逆に増加している。

この要因は、新入生の段階ではまだ課題など自分の研究分野が確立しておらず、キーワードを思考する際に「スポーツ」「体育」など漠然とした単語が目立つ

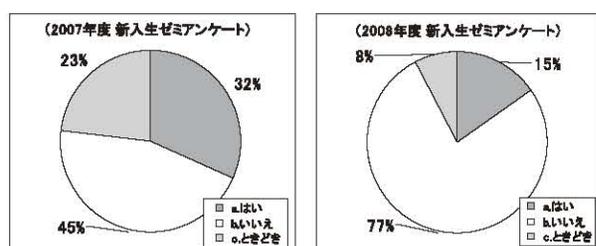
反面、3年生は自分の卒論のテーマに沿ったキーワードを思考するため、検索する単語がより専門的になる。そのことにより時間を要するようである。

その他の②、③部分での所要時間は回数を増やすことによる「慣れ」で、所要時間は減少している。

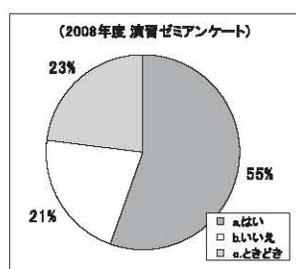
6. 調査結果

図書館情報（リテラシー）教育におけるスポーツ学部学生の利用に伴う動向は「4. 利用の動向変化」、「5. 講義中の課題（検索）に要する時間の変化」について行った利用意識調査及び利用状況調査から学生の学習能力向上及びスキル向上をみることができた。

また、これらの図書館情報（リテラシー）教育を行うことによるその後の意識調査から下記のようなこともみえてきた。



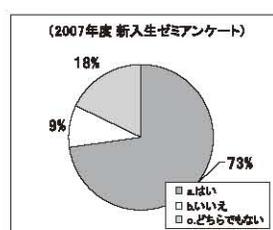
(図 8) 新入生ゼミを受けたあと図書館を利用していますか



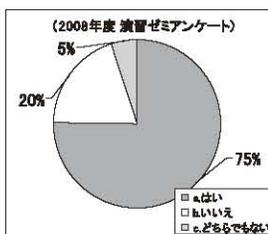
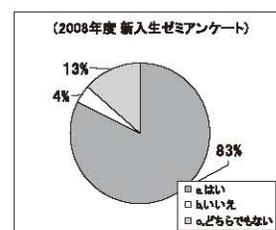
(図 9) 演習ゼミ（3年生）後、図書館を利用していますか

昨今の図書館ばなれの実態を危惧しながらも意識調査結果をみると、図書館利用率は図8の新入生では45～77%が利用していなかったが、図9の3年生では55%と図書館利用率は上がっており、学習意欲が高いことがわかる。

また、検索方法の習得意識についても、図10-1、図10-2が示すように73～83%の学生が理解しているという認識を持っている。検索方法を理解しているということは、検索におけるキーワードの切り出しについても理解をしていると考えられる。

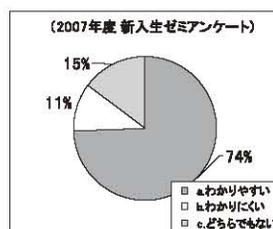


(図 10-1) 検索方法は理解しましたか

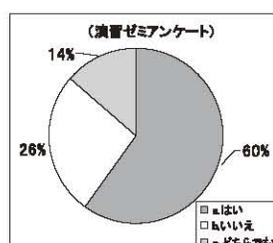
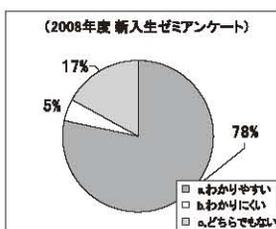


(図 10-2) 検索方法は理解していますか

同様に図11-1、図11-2の数字をみても分かるように60～78%の学生が理解をしていると回答している。



(図 11-1) キーワードの使い方は理解しましたか



(図 11-2) キーワードの使い方は理解できましたか

このことは「(図6) スポーツ学部3年生の1年生からの貸出冊数」からも見て取れる。

学生が貸出に至るまでは、まず図書館に入館して自分が調べたい資料のキーワードを切り出し、検索を行って初めて貸出という流れになる。

この流れが身につけなければ、貸出冊数が増加に繋がることはないが、着実に年度を経ることに数字があがっていることは確かである。その結果、図書館情報（リテラシー）教育による繰り返し行う「動機付け習慣」が図書館利用（活用）の促進に有効に働いているといえる。

あわせて、今回は1年生から3年生までの比較を行ったことにより、学生の学習及び図書館利用動向を把握できるとともに図書館情報 (リテラシー) 教育の必要性が如実なものとなった。

7. 今後の課題と展開

今年度図書館活用を行い、1年生に行った図書館情報 (リテラシー) 教育の意義及び学習効果が少なからずとも学生自身のスキルとして反映していると考えられる。そのことは図書館情報 (リテラシー) 教育の回数とも関連してくることは事実である。

前述のアンケート及び課題処理能力からみても、そのことは如実に見て取れる。

ただ、今後の課題として文献収集における質の向上、学生が本当に欲しい文献を入手できているのか、また入手ルートについての確な方法で迅速に手に入れているかなど、現3年生が4年生になった時点でまた新たなアンケート調査を行い、図書館利用の動向をみていく事が今後の課題となる。

最後に、このような図書館活用及び学習姿勢はスポーツ学部の特性から考えても、各競技種目へ反映するのではないかと推察される。この新たな視点は次への展開へと広げ、その相乗作用がどこにあるのか等のポイントも分析することにより、今後の学習意欲向上へつなげたい。

学生の学習支援及び学習体制の整備は他ならぬ教員と図書館の連携が今後のあらゆる数値に結びつくのではないかと考える。

参考文献

- 1) 堀内担志, 矢崎美香 (2008) : 図書館情報 (リテラシー) 教育におけるスポーツ学部学生の利用に伴う動向について. 九州共立大学スポーツ学部研究紀要, 2 : 1-6.
- ・ 文部科学省 (2005) : 平成17年度「学術情報基盤実態調査」の結果報告.
http://211.120.54.153/b_menu/toukei/001/index20/07012502/001.pdf
- ・ 水上佳子 (2006) : 図書館情報リテラシー教育への取り組みについて. 山梨大学附属図書館『やまなし』, 4(2):2.
- ・ 奥村稔 (2006) : 高校の情報教育と大学図書館の情報リテラシー教育. 北海道地区私立大学図書館協議会2006年度第1回業務研究会発表資料.

<http://lib.sgu.ac.jp/html/HSTK/06nendo/okumura.pdf>

- ・ 納谷廣美 (2007) : 「教育の場」としての図書館の積極的活用 -図書館の持つ教育力を教育に活かす-.
<http://www.lib.meiji.ac.jp/about/gp/index.html>
- ・ 広沢絵里子 (2007) : 図書館の教育力. 大学時報, 56(315):42-45.
- ・ 長澤多代 (2007) : 情報リテラシー教育を担当する図書館員に求められる専門能力の一考察: 米国のウエイン州立大学の図書館情報学プログラムが開講する「図書館員のための教育方法論」の例をもとに. 大学図書館研究, (80):79-91.
- ・ 大城善盛 (2007) : 情報リテラシーと図書館サービス. 現代の図書館, 45(4):183-189.
- ・ 大谷朱美 (2007) : 教員との連携による情報リテラシー教育支援. 現代の図書館, 45(4):213-225.
- ・ 上岡真紀子, 市古みどり (2007) : 図書館員による情報リテラシー教育～現在・過去・未来. 現代の図書館, 45(4):226-233.
- ・ 太田潔 (2007) : 「初年次教育」にかかわる大学図書館の役割についての一考察—最近の動き—. 図書館雑誌, 102(2):94-99.